

実践女子大学・実践女子大学短期大学部

教員研修 成果報告書（Web 公開用）

1. 所属	大学教職センター
2. 職名・氏名	教授・柏崎 秀子
3. 研修期間	2020 年 4 月 1 日 ～ 2021 年 3 月 31 日
4. 研修先機関（国名）	東京学芸大学
5. 研修課題名	深い学びを支える言語力の育成に関する探求
6. 研修経過 （月単位で記載してください） 例）4 月上旬～5 月下旬：	4 月上旬～8 月上旬： ①大学院の授業（学習評価の理論と方法）に参加して、心理学的見地から教育実践を分析する観点・手法等を研究した。 ②所属研究室のゼミ（授業実践の心理学）に参加して、心理学的知見を活用した学習指導に関する卒業論文の指導に従事した。 8 月上旬～9 月下旬：特別支援教育の研究室と交流し、さらに、教育現場の特別支援教育ベテラン教員の十数名ともそれぞれに意見交換する機会を持ち、特別支援教育の今日的課題などについて知見を深めた。 10 月上旬～11 月下旬：特別支援教育の今日的課題のひとつである「障害はないが特別な教育的ニーズを必要とする生徒への支援」に焦点化して、文献研究を行い、論文を執筆した。 12 月上旬～2 月下旬： ①特別支援教育の観点を踏まえて「思春期・青年期の発達の課題とその支援」に焦点化して文献研究を行った。 ②所属研究室のゼミで卒論指導などに従事した。 3 月上旬～下旬：これまでの諸研究活動を取りまとめつつ、特別支援教育に関する図書刊行の準備を携わった。
7. 本研修で得られた成果等（論文・学会発表含む）	①主体的で深い学びを支える教育実践の工夫と、その背景にある心理学的知見との関連性について、様々な優れた授業実践の実際から、導き出すことができた。 ②特別支援教育における今日的課題を多様な観点から捉えることができ、その課題の幾つかについて掘り下げて分析することができた。それらを以下の成果物の形で発表する。 ・論文「教職課程新科目「特別支援教育」の指導事項の検討ー障害以外の特別な教育的ニーズを中心にー」『教職センター年報 第 4 号』p. 7-15（2021 年 3 月刊行）

	・論文「思春期・青年期における発達の課題とその支援のあり方」『教職センター年報 第5号』（投稿予定） ・図書『通常学級で活かす特別支援教育概論』（編著，ナカニシヤ出版，2021年8月刊行予定）
8. 所感	研修開始時はコロナ禍によって多大な制限状況となり、当初の活動予定であった教育現場との往還ができず、研修活動の先行きが見えずに不安な中にあったが、その時点でできることに真摯に取り組もうと捉え直すことにして、制限ある状況下でできる研究を行うように努め、教育現場を訪問できる状況になるのを待った。 しかし、その後も教育現場への部外者立ち入り制限の継続が明らかとなったため、残念ながら、当初の研究テーマの一部を変更することを決断した。すなわち、研修先選定理由のひとつでもあった教員養成の今日的課題に関する研究交流を目指し、今日的課題のひとつである特別支援教育にシフトし直し、特別支援教育の他研究室および特別支援教育のベテラン教員の方々と積極的に交流して、研鑽を深めることができた。新たな研究テーマと研究活動により、これからの学校教育では通常学級においても特別支援教育の観点が不可欠であることが改めて認識でき、教員養成に携わる者として通常学級教員を目指す学生達が修得すべき諸事項を分析し明確に指摘できたことは、大いに有意義であった。この研究成果を今後の教職教育に活かしていきたい。